



▲マスクをしながら、『まわり将棋』を楽しむ子どもたち（青葉児童クラブ）



▲体育館で間隔を空けて座り、先生の話を書く子どもたち（若草小学校）

## マスク越しにあふれる笑顔

### 放課後児童クラブ再開・市内小中学校の分散登校

3/2～  
3/11～

北海道内において感染が確認されている新型コロナウイルス。市内においても、公共施設が臨時休館となり、さまざまなイベントなどが中止や延期となるなか、小・中学校の臨時休校と合わせて閉所としていた市内7カ所の放課後児童クラブを3月2日（月）から、開所しました。日中、保護者が仕事などで留守にする小学生を対象に遊びや生活の場を提供する同クラブ。手洗いや消毒など、普段よりも感染症対策が徹底されるなか、子どもたちは突然の休校以来久しぶりに過ごす友だちとの時間に、元気な笑顔を見せていました。鷺別児童クラブに通う山田悠生さん（鷺別小）は、「友だちと広い遊戯室で遊んだりすることができて楽しいです」と目を細めていました。

また、3月11日（水）からは、市内小・中学校においては『分散登校』を実施。学年ごとに登校時間をずらし、児童同士の距離が一定程度保てるよう体育館に登校した子どもたちは、先生から自宅などで取り組む感染予防や休校期間中の課題などを聞きながら、普段どおりの学校生活を心待ちにしていました。

**手話で交わす心**  
2020年登別市市制施行50周年記念  
第4回めぐもりある手話フェスティバル

2月23日（日）、市民会館で開催された『第4回めぐもりある手話フェスティバル』（同実行委員会主催）。平成28年4月の『登別市めぐもりある手話条例』施行以降、毎年開催されている同イベントは、聴覚に障がいのある人となない人が交流しながら、言語の一つである『手話』に気軽にふれることができる場になっていきます。参加した約40人は、音楽に合わせて歌詞を伝える『手話コーラス』を行ったり、聴覚に障がいのある人々のドキュメンタリー映画を見たりしながら、手話への理解と関心を深めていきました。



▲15人の審査員が参加した審査会



◀令和元年度、新たに追加された『のぼりべつエゾシカ味噌煮たけのこ入り』

2/23



▲参加者に簡単な手話を教える山田実行委員長

**至極の一品、またひとつ**  
令和元年度登別ブランド認定

登別ブランド推進協議会は、2月18日（火）、先に開催した審査会の結果をもとに協議を行い、令和元年度の登別ブランド推奨品を新たに一品認定しました。認定された株式会社伊奈不動産の『のぼりべつエゾシカ味噌煮たけのこ入り』は、エゾシカ肉やたけのこ、しらたきなどをみそ味で焼き焼き風に仕上げた缶詰で、のぼりべつエゾシカ缶詰シリーズの第4弾です。また、認定期間の3年を経過する5商品についても厳正な審査の結果再認定し、登別ブランド推奨品は計34品となりました。今後も、同協議会は、ブランドの推進に向けた支援を行っていきます。

2/18